アスリートから教師へ

From Athlete → to Teacher

アスリート出身者の教師としての入職に関する事例集

子供たちの成長に寄与する
セカンドキャリアの歩き方

普通免許状がなくても
学校現場で
働ける方法を紹介

Contents

［アスリート向け］
教師になるには？Q&A
＊
［教育委員会向け］
教育委員会が考える
「アスリート人材」の可能性

［CASEs 先輩インタビュー］

Case 1. ｜北海道｜日本体育大学附属高等支援学校｜北野貴丸先生｜特別免許状｜
サッカー選手→保健体育教師

Case 2. ｜福井県｜福井県立美方高等学校｜荒木祐作先生｜特別免許状｜
ボート選手→体育専科教師・ボート部コーチ

Case 3. ｜長野県｜長野県南箕輪村立南箕輪小学校・南部小学校｜山本憲吾先生｜普通免許状｜
バレーボール選手→体育専科教師

Case 4. ｜京都府｜京都府立乙訓高等学校｜池端花奈恵先生｜特別免許状｜
フェンシング選手→保健体育教師・フェンシング部顧問

Case 5. ｜大分県｜大分県立佐伯豊南高等学校｜澤田実希先生｜普通免許状｜
陸上400mハードル選手→保健体育教師・陸上部コーチ

Prologue

アスリートとして培った力を生かして教育に携わる道がありません

文部科学省は、令和2年度から始まった新たな学習指導要領において、学校教育を学校内に閉じず、地域の人的・物的資源も活用し、社会との連携及び協働によりその実現を図る「社会に開かれた教育課程」を掲げています。

また、令和4年12月に取りまとめられた中央教育審議会の答申（「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～）においては、個々の教師の資質能力の向上に加えて、教職員集団の多様性の確保が必要であるとされており、様々な専門性や背景を持つ人材を学校現場に迎え入れることの重要性が示されています。

こうした方針を背景に、普通免許状を持っていなくても「教師」になることができる「特別免許状」や「特別非常勤講師」の制度を活用し、通常の選考とは異なる特別な採用選考を実施している自治体があります。

＊

この冊子では、学生時代に取得した普通免許状や、社会人になってから新たに取得した特別免許状等を活用し、教師として子供たちの成長に携わる道を選んだ5人の元アスリートの事例を紹介します。

真摯に競技に取り組む中で培ってきた、自ら課題と目標を設定し結果が出るまでやり切る力や結果がいいときも悪いときも諦めずに自らを律して前を向く力。

これらの得難い能力や経験を次世代や社会のために生かしている元アスリートの事例を通して教師としてのセカンドキャリアを考えてみてはいかがでしょうか。

巻頭と巻末では、教員免許にまつわる制度の解説やアスリート人材の登用に取り組む教育委員会の声を掲載しています。

こちらも併せてご活用ください。

アスリート向け

教師になるには？

制度解説

Q&A

Q1 教員免許を持っていなくても、教師になれるのですか？

A 競技経験や実績によって「特別免許状」の授与を受けることができる場合があります。

教 員免許には、普通免許状、特別免許状、臨時免許状の3種類があります。最も一般的な普通免許状は、大学等で教職課程を履修することで授与されるものです。

社会人の方でも、今から大学等に入学し、教職課程を履修して普通免許状を取得することも可能です。ただし、大学等で教職課程を履修せずとも、アスリートの皆さんのように、特定の競技で長年活躍された方や、大会等で優れた成績を残された方などの場合は、別の方法があります。教科（例えば保健体育）に関する優れた知識や経験、技能を持つ人物を学校現場に迎え入れる制度として、「特別免許状」という免許状が用意されており、令和4年度までに延べ2774件の特別免許状が授与されています。

Q2 特別免許状が授与される条件は？

A 採用権者から推薦を受け、教育職員検定に合格する必要があります。

特 別免許状は、教師の採用権者（教育委員会や学校法人など）からの推薦に基づき、都道府県教育委員会が実施する「教育職員検定」に合格した者に授与されるものです。「教育職員検定」の具体的な内容は、免許状の授与権者である都道府県教育委員会ごとに異なりますが、教科に関する専門的な知識経験又は技能を持っているか、社会的信望や教師としての職務を行うのに必要な熱意と識見を持っているかなどについて確認することとなっています。

都道府県教育委員会が特別免許状の授与に関する基準を定める際の指針として、文部科学省が「特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針」（以下「指針」という。）を示しており、抜粋版はP5に、詳細はQRコードのリンク先から確認できます。

特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針
▼

特別免許状制度を活用した社会経験のあるアスリート人材

1 岩手県教育委員会

・以下の競技実績又は指導実績を有する者で、教員の職務を行うのに必要な熱意と識見を有する者

【競技実績】（平成30年度以降の実績に限る）

・高等学校卒業後、国際規模の競技大会※1に日本代表として出場した者、又は全国規模の競技大会※2において優秀な実績※3を有する者。ただし、団体競技の場合は、正選手として出場した者に限る。

【指導実績】（平成30年度以降の実績に限る）

ア　国際規模の競技大会※1に日本代表として出場した選手又はチームを監督等として指導した者

イ　全国規模の競技大会※2において優秀な実績※3を挙げた選手又はチームを監督等として指導した者

ウ　国民体育大会少年の部、全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜等大会（全国高等学校体育連盟主催に限る）、全国高等学校野球選手権大会、選抜高等学校野球大会、全国中学校体育大会、ジュニアオリンピックカップ（全国高等学校総合体育大会又は全国中学校体育大会で実施される競技に限る）において優秀な実績を挙げた選手又はチームを監督等として指導した者

※1　国際規模の競技大会とはオリンピック、世界選手権大会、アジア選手権大会及びこれらに準ずる国際大会であること。

※2　全国規模の競技大会とは国民体育大会、全日本選手権大会及びこれらに準ずる全国大会であること。ただし、学生や社会人等のカテゴリー別の大会は除く。

※3　優秀な実績とは4位以内入賞であること。

2 栃木県教育委員会

・国際大会に日本代表として出場した者・全国大会において、競技者として出場し、団体又は個人でベスト4以上の成績を収めた者

・第77回国民体育大会の成年種別において、本県代表選手として、入賞した者

3 京都府教育委員会

・共通の受験資格に加え、次に掲げる1～3の要件を満たす方

1 保健体育の分野における高度な専門的知識・経験又は技能を有する方

2 特別免許状の授与条件を満たす方

（該当教科の普通免許状を有する方又は令和6年3月31日までに取得見込みの方を除く。）

3 京都府教育委員会が指定する競技において、①又は②のいずれかに該当する方

①選手として、国際的規模の競技会に日本代表として出場した方又は日本選手権大会若しくはこれに準ずる全国的規模の大会において選手として極めて優秀な成績を収めた方

②指導者として右記①に該当する選手を輩出した方

Q3 教員免許を持たないアスリートが、教師として採用されるにはどんな方法がありますか？

A 特別免許状の授与を前提とした採用選考や特別非常勤講師として採用される方法などがあります。

教 員免許状を持っていない人でも受験可能な、特別免許状の授与を前提とした特別の採用選考（「スペシャリスト特別選考」など）があります。普通免許状を持っていなくても、教科に関する高い専門性や幅広い知識のある人物などを対象に採用選考を行い、選考通過後に、教育職員検定を経て特別免許状の授与を行うといった方法です。なお、上の図は自治体が令和5年度に特別免許状制度を活用した社会経験のあるアスリート人材の採用選考を実施した中から、参考事例として抜粋した受験資格を示したものです。採用選考における受験資格は自治体ごとに異なり、年度によって更新されますので、教育委員会のホームページ等をチェックしてください。

Q4 特別非常勤講師とはなんですか？

A 教科の領域の一部について、単独で指導や評価を行うことができる免許状が不要な講師です

例 えば、教科「保健体育」のうちのバスケットボールに関する授業など、「教科の領域の一部」について、教員免許状を持っていなくても、採用権者が都道府県教育委員会に届出を行うことで「特別非常勤講師」として単独でその領域の指導や評価を行うことができます。特別非常勤講師の応募要件は、各都道府県や市町村の教育委員会によって異なります。

※特別免許状を活用した採用選考を実施している都道府県はここに掲載しているものに限られず、また、年度によって採用選考の情報は更新されます。

採用選考の受験資格例（令和5年度の実績より参考事例として抜粋）※

4 福井県教育委員会

・教育エキスパート特別選考（スポーツ教育分野【従来枠】）

次に掲げる事項の1～2を満たし、3または4を満たす者

1 民間企業、研究機関等で3年以上の競技経験または指導経験を有する者

2 保健体育の分野における高度な専門的知識・経験または技能を有する者

3 国民体育大会の正式競技および硬式野球において、平成30年4月1日以降に次に掲げる①または②の実績を収め、それ以降も引き続き活動を続けている者

①国際レベルの大会（オリンピック大会、アジア大会及びこれに準ずる大会）に日本代表として出場した者

②全国レベルの大会（日本選手権大会及びこれに準ずる大会）において団体種目はベスト4以上、個人種目はベスト8以上の成績を収めた者

（ただし、団体種目については正選手として出場した者に限る。また、教職員の全国大会や全国大会の2部は除く）

4 指導者として上記3の①または②に該当する選手を輩出した者

＊

・教育エキスパート特別選考（スポーツ教育分野【地域連携枠】）

次に掲げる事項の1～2を満たし、3または4を満たす者

1 民間企業、研究機関等で3年以上の競技経験または指導経験を有する者

2 保健体育の分野における高度な専門的知識・経験または技能を有する者

3 「自転車競技」または「バドミントン競技」において、平成25年4月1日以降に次に掲げる①または②の実績を収めた者あるいは平成25年4月1日以降にプロ選手として活動していた者

①オリンピック、アジア競技大会、世界選手権及びこれに準じる大会、あるいはユニバーシアード競技大会、年齢別世界選手権に日本代表として出場した者

②全日本選手権（インカレ）において、団体種目は優勝、個人種目は3位以上の成績を収めた者（団体種目は正選手として出場した者に限る）

4 指導者として、平成30年4月1日以降に上記の3の①または②に該当する選手を輩出した者あるいは全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜等大会において、団体種目は優勝、個人種目は3位以上の成績を収めた選手を輩出した者

5 山口県教育委員会

・高等学校卒業以降、次の①②のいずれかに該当する者。ただし、成績及び実績は、平成30年4月1日以降のものに限る。

① オリンピックや世界選手権等の国際的な大会に日本代表として出場し、一定の期間その競技力を維持し、活躍が認められる者又はその者を指導育成した実績を有する者

② トップレベルの選手が参加する日本選手権等の全国的な大会の団体戦若しくは個人戦において、原則としてベスト4以上に入賞し、一定の期間その競技力を維持し、活躍が認められる者（ただし、団体戦の場合には、正選手であった者）又はその者を指導育成した実績を有する者

最新の採用情報は、Q5に掲載しているQRコードからご確認ください。

Q5 教師の採用に関する情報はどこに公開されていますか？

A 自治体や学校法人などのホームページに掲載されます

公立学校の場合は、都道府県や市町村のホームページなどに求人の公募が掲載されるので、定期的なチェックがおすすめです。また、文部科学省が各教育委員会等における教育人材募集等に関する情報などをまとめたポータルサイト（QRコードからアクセスできます）を参考にしてください。なお、国立や私立については、国立大学附属学校連盟や都道府県私学協会などの団体のホームページで調べたり、インターネットで「教職員募集 エリア名 私立学校」「教員採用 国立大学附属学校」などのキーワードで検索し、採用情報を確認する方法があります。

各教育委員会等における教育人材募集等に関する情報

▼

「特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針」（抜粋）

『教員としての資質の確認』

1 教科に関する専門的な知識経験または技能→学校又は教育施設において教科に関する授業に携わった経験（概ね600時間以上）または、教科に関する専門分野に関する職務経験（概ね3年以上）のいずれかを有していることを確認することが考えられるが、次の（例）に掲げる状況等を踏まえつつ、優れた知識経験等を有することが確認できる場合で、他の項目の確認が行われた場合には、この基準のみによることなく、各都道府県教育委員会の判断で特別免許状の授与を行うことが適当である。

（例）各種競技会等における実績（特に、競技会においてはオリンピック競技大会等国際的な規模において行われるものに出場した者、日本選手権若しくはこれに準ずる全国規模の大会において優秀な成績を収めた者又はこれらの者を指導育成した実績を有する者については、原則として体育又は保健体育に関する専門的な知識経験等を備えていることが想定される。）

2 社会的信望、教員の職務を行うのに必要な熱意と識見→推薦状や志願理由書により確認する。

『学校教育の効果的実施の確認』

任命者または雇用者による推薦状により、授与候補者を学校現場へ配置することにより、学校教育が効果的に実施されることを確認する。

『第三者の評価を通じた資質の確認』

学識経験者や学校管理職との面接により、授与候補者の教員としての資質を確認する。

Q6 どんなアスリートが教職に興味を持っていますか？

A

「子供たちの成長をサポートすることに喜びを感じる」「教育を通じた社会貢献がしたい」と考える人たちです。

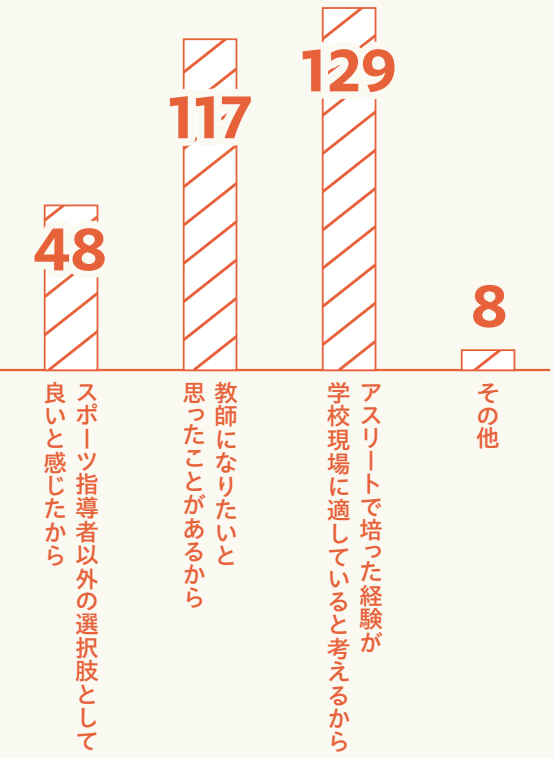
本委託事業において、令和5年度にアスリート（※）を対象に実施したアンケート調査（回答464人）によると、「学校現場で働きたいと思いますか？」という質問に対して、64％がとてもそう思う・ややそう思うと回答しており、教師がアスリートにとって魅力的な職業選択の一つであることが読み取れます。

※【調査対象】中央競技団体が強化指定選手としてこれまでに指定した実績がある選手および同等の競技実績があると思われる選手・指導者（現役・引退、プロ・アマチュアを問わず、18歳以上が対象）。各中央競技団体に質問票を送付し回答を得た。

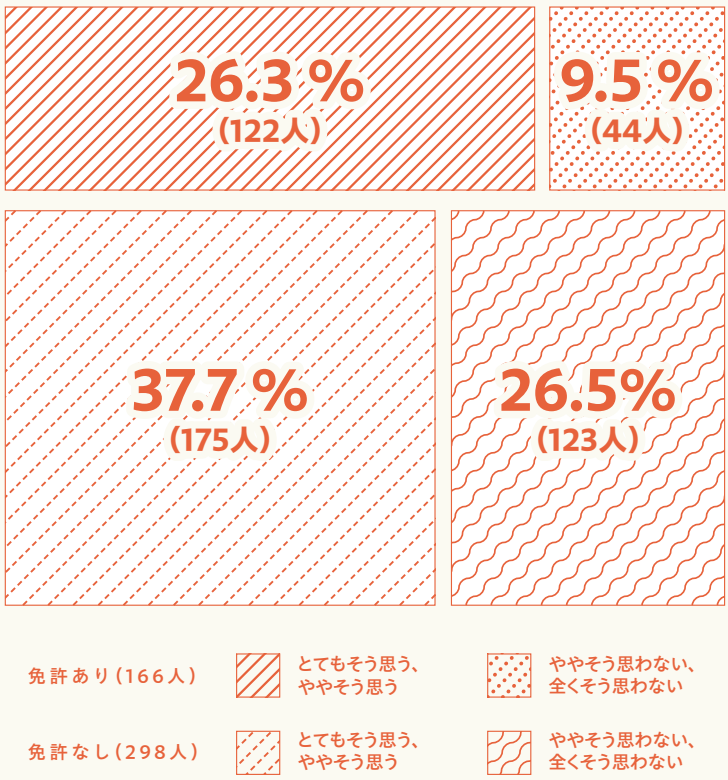
学校現場で働きたいと思う理由はなんですか？

（複数回答可）

学校現場で働くことに関心のある層（とてもそう思う・ややそう思うと回答した層）に対して「学校現場で働きたい理由は何ですか？」という質問をしたところ、「子供たちの成長をサポートすることに喜びを感じるから」という回答が最も多く、次いで「教育を通じた社会貢献がしたいから」、「アスリートで培った経験が学校現場に適していると考えるから」と続いてます。



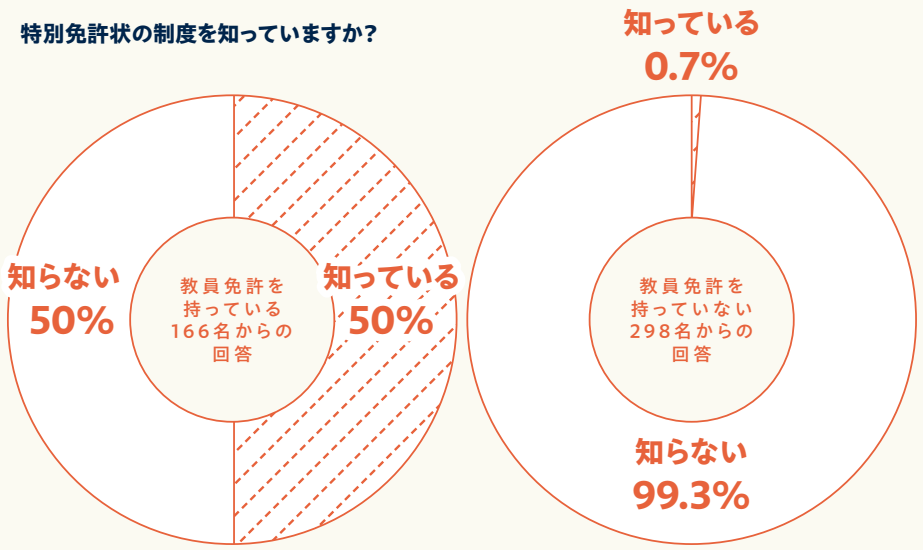
学校現場で働きたいと思いますか？



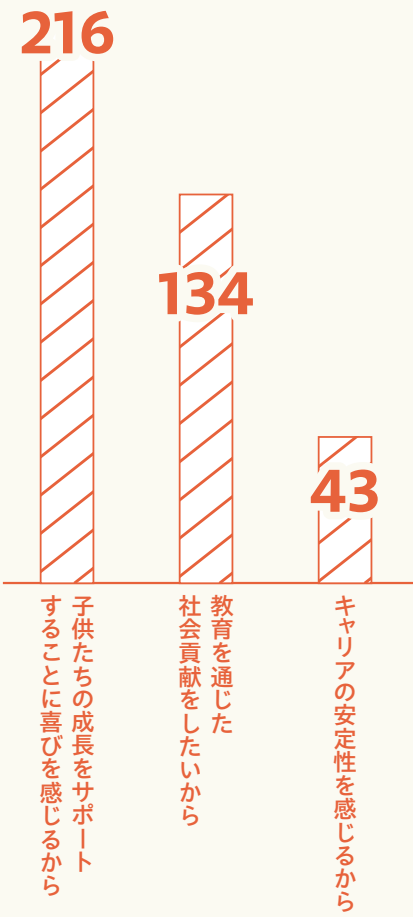
Q7 採用後、研修などはありますか？

A 自治体による研修や校内研修などが行われています。

指針において、教育委員会や勤務校等において、普通免許状所有者が指導・支援を行う形で特別免許状所有者の研修計画を立案し、実施することを示しています。中堅教諭等資質向上研修を始めとした各自治体が実施する研修のほか、学年主任や教科主任等による校内研修、教職大学院と連携したより高度な研修など、各任命権者や学校において必要な研修が行われています。



特別免許状の認知調査を行ったところ、教員免許を持っているうちの50%が特別免許状を知らず、教員免許を持っていないと回答したアスリートでは実に99.3%が特別免許状を知らないと回答しており、特別免許状等の制度を知ることでより教職への志向性が高まる可能性があると考えられます。



次ページからは、
アスリートとしての
経験や実績を活かして
教師として活躍する皆様の
事例をご紹介します。

教師は、生徒の変化と より良い地域づくりに関われる やりがいのある仕事です

［ 北海道 ］

日本体育大学附属高等支援学校

北野貴丸先生

CASE 01

DATA

年齢	44歳
教師歴	1年
資格	特別免許状
担当科目	保健体育
競技	サッカー

北野先生が学校現場で働くようになったのは、コロナ禍で起きた偶然がきっかけでした。日本体育大学附属高等支援学校の寄宿舎で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生。業者の食事が提供できず、お弁当を調達せざるを得ない状況になったとき、学校の外部から尽力したのが、地域振興の中心的担い手だった北野先生でした。人柄に惚れ込んだ学校側が「本校の実習助手に」と招へい。当初は、東京で少年団のサッカーを指導した経験や、競技人生で培ってきた知識や指導法を期待されての登用でした。

「サッカーだけでなく、『地域のために』とやってきたことの結果として声をかけていただけたこと、評価していただけたことが嬉しくて。また、学校運営において地域との連携が重要という考えを聞き、学校に関わることで地域のためになれるという気づきを通して、体育等の指導に新たなやりがいを見出しました。」

家業である靴屋の仕事をしながら実習助手として生徒や学校に関わり始めた北野先生は、特別非常勤講師を経て、1年4ヶ月後にはフルタイム専業の教師に。他の先生たちのように大学で教職課程や教育実習を修了していないことに心理的なハードルを感じながらも、「教えることが楽しかったし、僕を使って学校がどんどん地域に広がっていくのが嬉しい」と転身を決意したのです。それから1年、当初は学校組織特有の仕事の進め方などに戸惑いを感じたものの、職場の先生たちの協力を得て北野先生らしい指導に注力できるようになってきていると言います。

「前職が自営業だったので、『指導案』や『起案書』、『計画書』など、事前に書類を作成して許可を取る段取りに戸惑いました。学校特有の言葉が意味するところがわからないこともありましたが、わからないことはわかる人に聞きに行って覚えれば大丈夫。職員室の雰囲気がすごく良くて、他の先生方から色々なアドバイスをいただけることにも助けられています。」また、日本体育大学附属高等支援学校の授業では15－6人の生徒を2－3人の先生で受け持つため、サブで入った授業のメインティーチャーから学んだり、自分がメインの時にはサブで入った先生からフィードバックをもらえるといった環境も後押しになっているようです。

サッカーで得た楽しい経験を生徒たちにつなげたい

「書類の作成に慣れたばかりの頃は、カッコつけてマニュアル通りの〝授業〟をしようとしていました。ところが、生徒たちには響かなかった。そこで、ホワイトボードにメニューを書いて『どれをやりたい？』と選ばせる進め方をしてみたら生徒たちは興味を持って続けます。」こうした工夫の背景には、北野先生自身が長い間サッカーを楽しみ、続けてこられた理由があります。

「勝つためのサッカーをやらされたことがなくて、ずっと楽しかったんです。といっても、甘やかされてきたわけでもなく、高校時代のサッカー部の恩師には、基本の大切さを叩き込まれました。強豪校ではないチームで失敗や挫折もたくさん経験しながら、自分で課題を見つけて工夫したり、人と違うアプローチを考えながらやってきた。その経験を生徒たちに置き換えると、自ずと『この子は今ここまでできるから、次はこういう練習がしたいだろう』と考えることができます。そうやって向き合うと、生徒が変わるんです。」

生徒の課外活動を率先して引率するのも、学校の外で市民と触れ合うことで生徒が変わることを実感しているから。生徒へのつぶさな眼差しを持つ北野先生にとって、教職は「根気よく方法を伝えることで、生徒のできることが増え、次のステップへの挑戦意欲を見せてくれて、いつの間にか入学した時から大きく成長している。毎日そういう姿を見られるやりがいのある仕事」です。

LIFE HISTORY

1987年●7歳
地元網走の少年団で小学2年生からサッカーを始める

1992年●12歳
入学した中学校にサッカー部がなかったためバレー部に所属しながら地元のクラブチームでサッカーを続ける

1995年●15歳
高校に入学しサッカー部に所属
キャプテンとして高体連支部大会で優勝

1998年●18歳
日本体育大学に入学
サッカー部に所属
大学3年生で膝の靭帯を切る怪我

2002年●22歳
就職
東京でスポーツ関連企業に勤務しながら地域のサッカー少年団を指導

WEEKDAY

平日

8時40分〜
ショートホームルーム

8時55分〜15時
メインティーチャーとして6コマ、サブティーチャーとして6コマその他作業学習（農業）の授業を受け持つ。
授業がない時間帯は、授業の振り返りやアドバイスをもらう時間に充てている

昼食は、寄宿舎で生徒たちと

17時
退勤

WEEKEND

土日
学校が主催する販売会や地域のイベントを随時引率

MESSAGE FROM
STUDENTS

うまくいかない原因を具体的に教えてくれます。

安全面に厳しい。

北野先生からサッカーの話を聞くのが楽しい。

校外で販売会を開いて、農業でつくったサイダーやリキュールを売る時にもついてきてくれます。学校の授業以外にも、週末に地域のイベントやお祭りに出かける時には、率先して引率してくれます。

MESSAGE FROM
平野 雅嗣 副校長

北野先生は、本校の実習助手から保健体育の特別非常勤講師を経て特別免許状を取得し正規の教諭になりました。我が校では、特別免許状制度を活用した教師の任用は初めてでしたが、北野先生は人柄も素晴らしくサッカー指導の実績もありましたので、学校側から声がけして即戦力を期待し採用したという経緯です。特別免許状制度については、知ってはいましたがオリンピックに出るようなトップアスリートしか対象にならないという印象を持っていました。

しかし、北野先生を採用したいと考えていたタイミングでちょうど北海道教育委員会から通知があり、教育委員会が「教科に関する専門的な知識経験又は技能」を有することの確認ができれば基準を満たし、そのほかに本人の教職へのやる気も評価してもらえるとのことから、活用に至りました。採用や免許状取得の手続においては、北海道教育委員会の担当の方が親身になって学校に向き合い協力してくださいました。

＊

また、北野先生は地元の出身で、地域活動の担い手としても活躍してこられています。サッカーを含め保健体育の指導にとどまらず、農業教育を通して地域に開き、地域と共にある学校を目指す上で、つなぎ役としても活躍していただいています。北野先生を見ていると、社会人としての礼節や競技にまつわる知識と技術はもちろんのこと、自分と同じ強さを生徒たちに求めるのではなく、人の弱いところも理解でき、相手の立場に立って寄り添えるアスリートが教師に向いていると気付かされます。

2008年●28歳
網走に戻り家業の靴屋を継承しながら社会人サッカーチームに所属
商店街振興組合理事

2021年●41歳
実習助手として日本体育大学附属高等支援学校に入職

2022年●42歳
同校にて保健体育の特別非常勤講師に

2023年●43歳
志望理由書を作成し、学校法人　日本体育大学の推薦状を得て北海道教育委員会による教育職員検定を経て特別免許状を取得。同校に保健体育の教師として着任

目指す教師像

生徒一人ひとりに寄り添って、なんでも相談できたり、地域のことを聞いたら何かしら答えてくれるその辺にいる地域のお兄さんのような先生になりたいです

いい時も悪い時も味わったから伝えられるものがあります

［ 福井県 ］

福井県立美方高等学校

荒木祐作先生

CASE 02

DATA

年齢	32歳
教師歴	1年
資格	特別免許状
担当科目	保健体育
競技	ローイング（ボート競技）

荒木祐作先生は、部活動競技の強化を主要ミッションに勤務する保健体育の教師です。福井県が「ローイング（ボート競技）」と「アーチェリー」の2種目で公募した、同県初となるポジションに採用され、福井県立美方高等学校で高等学校時代の恩師と共にボート部の指導をしています。また、地域の中学校のボート部を土曜日の練習のみ指導したり、イベントなどで中学生選手の発掘に取り組むなど、トップアスリートとして活躍した実績や経験を地域のローイング競技振興に生かしています。もともと教職に興味があり、スポーツ推薦で入学した日本大学でも教職課程を履修していたという荒木先生ですが、海外での代表戦が教育実習の日程と重なり普通免許状の取得が叶いませんでした。そんな先生にとって、自らが打ち込んできたローイング競技の指導や振興をミッションとする教師はうってつけの仕事でした。

「大学4年生の時に、競技と教職を天秤にかけて真剣に考えました。その時に出した結論は『競技をやりきる』でした。卒業後、5年後の福井国体までは競技を続けようと決め、非常勤職員として役場に入職しました（2年目から正規職員）。現役引退後は役場の仕事を続け、2年ほど前から中学生の部活動の地域移行に関わり始めていて、『指導者になりたい』という気持ちを折に触れて話していたおかげで、公募が出た時に福井県ローイング協会の方から声をかけていただけました。」

引退すると決めていた27歳の年に福井国体と全日本選手権で優勝し、競技者として有終の美を飾った先生は今、「自分ではなく生徒のための成長」を目標に新たなチャレンジに挑んでいます。

「高等学校のボート部では男女合わせて二十人強を指導しています。生徒たちが目指していた成績を残せた時の顔を見られたり、日々のトレーニングでできることが増えたりすると嬉しいです。悩んでいるときは悩んでいる時で、日々の子供たちの心境の変化を見ていくのは面白い。僕自身が、いい時も悪い時も味わいました。選手としていい結果を残せた時もあれば地を這うような時期もある、そういう経験をしたからこそ伝えられるものがあると思っています。」

その一方で、「自分の昔の経験やスキルはあくまで引き出しの一つ。生徒は一人ひとり考え方も能力も違うので、自分の感覚をそのまま伝えても相手の感覚とマッチしないことがほとんど」と内省し、競技自体が進化していることを念頭に、今のトップ選手に話を聞きながら指導方法を工夫しているそうです。

競技で培った根気で子供たちに関わる

教職への志があったとはいえ、役場から学校現場への転職に当たっては心理的なハードルがあったといいます。

「ちゃんとやっていけるのか不安でした。役場の仕事で相手にするのは大人ですが、教師は子供たちを相手にする仕事です。子供といっても高等学校生ですから、小学生を相手にするような接し方はできないし。どうしたらいいのか、戸惑いながら始めました。」美方高等学校では複数の先生で複数のクラスを見るチームティーチングを採用しており、荒木先生はメインの先生のサブにつくかたちで体育の授業を行なっています。こうした現場で同僚の先生の子供たちへの関わり方を学んだり、子供たち一人ひとりの反応を見て対応を変えたりしているそう。「自分で決めたところまで競技をやり切った経験を通して、簡単に妥協したり投げ出したりしない力が鍛えられたと思います。そうした力が、人と関わり続けるのに必要な根気につながっている」と話す荒木先生は、美方高等学校の体育科にとっても、福井県のローイング競技にとってもなくてはならない存在です。

LIFE HISTORY

2007年●15歳
高等学校1年でボート競技を始める

2008年●16歳
高等学校2年で国体に初出場（高等学校時代の最高成績は3位）

2010年●18歳
日本大学にスポーツ推薦で入学
第37回全日本大学選手権大会・第88回全日本選手権大会優勝

2011年●19歳
第38回全日本大学選手権大会優勝

2012年●20歳
大学3年で岐阜国体・第39回全日本大学選手権大会・第90回全日本選手権大会を制覇
日本代表を目指し始める

2013年●21歳
大学4年で日本代表に選出され、第27回ユニバーシアード競技大会（世界大会）第3位、第40回全日本大学選手権大会優勝

MESSAGE FROM

北村 徹 校長

荒木先生は、本校で初めて特別免許状制度を活用して任用した教師です。福井県が2名募集した「地域連携スポーツ教員」のうちの1人で、勤務する曜日・時間が一般の教師とは異なります。火曜日から金曜日は9時30分から19時ごろまで。土曜日は練習時間に応じたフレックスで、日曜日と月曜日は休日。赴任校が決まっていて定年まで異動がありません。端的に言えば、ローイング競技の強化のために採用されています。保健体育の授業も、一般的な教師が週あたり18時間ほど持つのに対し、荒木は1日あたり多くて1時間程度と決められています。

＊

本校では複数クラスの授業をメインティーチャーとサブティーチャーの最低2名で受け持つチームティーチングをしています。他の教師が学外に出たりするケースも多い中で、臨機応変に入ってもらい、体育科運営にも大きく寄与しています。選手時代の活躍はもちろんのこと、社会人としての良識やコミュニケーションスキルも模範的です。教師集団はとかく画一的になりがちですが、一般社会での経験や豊富な競技経験を持つ荒木先生がいることで、ここ3年ほどで重視する機運が高まってきた「多様性」に寄与してくれていると強く思っています。主要なミッションである競技の強化においては、着任したばかりの2023年度に国体とインターハイと選抜で優勝を果たしました。

＊

全国優勝したクルーの生徒に聞いたところ、異口同音に「とても強くなった」と。「年齢が近く、自分たちの目線に寄り添ってくれる」「考え方が新しく新鮮」「言葉を噛み砕いで伝えてくれる」「フレンドリーで質問しやすい」と、褒め言葉しか出ず、100点満点で何点かを尋ねたら「110点」と言っていました。アスリート出身の教師が生徒一人ひとりの個性や能力に応じたコーチングスキルを持つことはとても大事だと思います。その点を理解した上で、努力してスキルアップしていただいているのだと感じています。

WEEKDAY

火曜日～金曜日

● 9時30分～16時
1日1コマを目安に体育の授業にサブティーチャーとして参加・校外に出て行う選手の発掘業務・部活動の準備・校務分掌（総務・式典やオープンスクール関連業務）

● 16時～19時
授業時間終了
ボート部の指導

● 19時
終業
※寮の管理も担い週1日は寮に宿泊

WEEKEND

土曜日
春から秋のシーズン中など、早朝練習がある日は6時に始業するなど7時間45分勤務を前提に臨機応変に対応

MESSAGE FROM
STUDENTS

荒木先生は、アスリートとして活躍していた経験に基づいた知識や考え方、視点を豊富に持っていらっしゃいます。「ボート以外のことから得るものもある。例えば、読書でイメージ力を向上し、イメージしたことを表現することを普段から心がけてみよう」「競技力を向上させるには、何ごとにおいても変化を嫌わないマインドセットを持つことが有効」といった言葉が印象に残っています。このような言葉で、自分たちが悩んでいる時にヒントを与えてくださいます。

目指す教師像

競技を強くすることが一番の仕事。インターハイ優勝常連校を、現状維持ではなく常にレベルアップさせていきたい

2014年●22歳
福井県美浜町役場に非常勤職員として入職
外部選手として関西電力美浜に入団
第92回全日本選手権大会優勝

2015年●23歳
福井県美浜町役場の正規職員に
第93回全日本選手権大会優勝

2016年●24歳
第94回全日本選手権大会優勝

2017年●25歳
第95回全日本選手権大会第2位

2018年●26歳
第96回全日本選手権大会・福井国体優勝
現役引退

2021年●29歳
中学校の部活動の地域移行にボート競技のコーチとして関わり始める

2023年●31歳
福井県立美方高等学校に体育専科教師として着任

諦めずに取り組む姿勢で結果は変わると伝えたい

［長野県］

南箕輪村立南箕輪小学校／南部小学校（２校兼務）

山本憲吾先生

CASE 03

DATA

年齢	31歳
教師歴	9年
資格	普通免許状（中学・高校の保健体育）
担当科目	体育専科教師
競技	バレーボール

山本憲吾先生は、長野県南箕輪村教育委員会が管轄する2つの小学校で、高学年を中心に体育専科教師として働いています。南箕輪小学校、南部小学校の2校を兼務しながら、もう一人の体育専科教師と学年を分けて勤務。南箕輪小学校、南部小学校では職員室に席があるほか、体育館の横に用意された体育専科教師専用のプレハブ勤務室で授業の準備や振り返りをおこなっています。「プレハブにいると、児童が遊びにきます。体育専科教師は村の正規職員なので、県に任用されている一般の先生と違って異動がありません。だから、もうすぐ卒業を迎える6年生には『僕はこれから35年くらいここにいるから、いつでも遊びにおいで』と伝えています。」

もともと体育教師への夢を持っていた山本先生は、保健体育の教員免許が取れる大学を意識的に選択。卒業後は、バレーボールの社会人チームに所属しながら岩手県立黒沢尻工業高等学校に保健体育の講師として勤務しました。その後、V1リーグのVC長野トライデンツのリベロとして活躍した5年間は長野県伊那養護学校の職員として障害のある子供たちをサポート。競技引退後も職員を1年間続ける中でできた南箕輪村長との縁がきっかけとなり、体育専科教師になる道が開けました。「僕自身が地域に支えられて競技を続けてこられていたので、養護学校の子たちが木工をするときに、地域とつながる形で本物の木を使わせてあげたいと思ったんです。村の大きな公園の多様な樹木を木材にしていると聞いてつないでもらったことで南箕輪村と関わるようになり、村長から体育専科教師のお話をいただきました。」それから2-3ヶ月の間に村の正規職員として採用されるためのSP-試験や面接を通過し、授業の見学などの準備を進めて南箕輪村初の体育専科教師が誕生しました。

「できる、できないじゃない。姿勢が大事」と伝え続ける

山本先生はこれまでに、「春高バレー出場」と「Vリーガー」という2つの夢を叶えてきましたが、その道のりは平坦ではありませんでした。小学校の卒業式で「春高バレーに出場します、Vリーグの選手になります」と宣言したものの、中学校に入ってみるとバレー部がなかったそうです。それでも諦めず、校長先生のところに行って直談判。同好会からスタートして「1年生の大会で優勝したら」との条件をクリアし、翌年には部への格上げが実現しました。「初めは体育館も使わせてもらえず、青空バレーで練習するなど当たり前がない環境を経験しました。今思い返しても、あの時の行動がなかったら、その後に春高バレーに出場することも、Vリーグの選手になることもなかったと思います。」抜群の行動力でチャンスを掴んできた経験は、生徒に伝え続けている「『できるかできないか』じゃない。取り組む姿勢が大事」というメッセージに落とし込まれています。このメッセージはまた、辛抱強く生徒に向き合う中で、先生自身が諦めない姿勢の現れでもあります。「『跳び箱やるよ』と言っても『わたし苦手なんです』で終わらせようとする子もいます。だけど、跳んでみてできた子はすごく喜びます。自分自身がバレーを続けてくる中で、負けても次の試合を諦めず、なにが駄目だったのか、次はどうするかどんどん考えてやってきました。そういう経験から、姿勢で結果が変わると信じているので、どうしたら『苦手』という子から取り組む姿勢を引き出すことができるかをすごく考えています。一人ひとり、性格や家庭環境、友達との人間関係も違い、その日によってコンディションの変化もある生徒たちに、自分の経験を一方的に伝えたり、何でもかんでも自分の理想に近づけようとしてもダメ。だけど、ブレずに言い続けることも大事かなと。」山本先生は、アスリート時代と同じように試行錯誤を続けながら、教師としての第二の人生を切り開いています。

LIFE HISTORY

2005年●13歳
千里丘中学校に入学。バレー同好会を創設

2006年●14歳
バレー部を創部し1年目で大阪府大会ベスト8
近畿大会出場

2007年●15歳
JOC杯全国都道府県ジュニアオリンピック　大阪北選抜　第3位

2008年～●15歳～17歳
大阪府立大塚高等学校バレー部で大阪府大会 優勝・春高バレー出場（3年連続）

2009年●17歳
奈良インターハイ 全国優勝
新潟国体準優勝

2011年●19歳
中京大学スポーツ科学部スポーツ教育学科に入学

2012年～2014年●20歳～22歳
大学ベストリベロ賞

2015年●23歳～24歳
岡崎建設OWLSに入団
全日本クラブ大会　第3位

2015年～2016年●
岩手県立黒沢尻工業高等学校で保健体育講師として勤務
男子バレーボール部　顧問

MESSAGE FROM
STUDENTS

先生には、ソフトバレーでスパイクの打ち方を教えてもらいました。打つときに手首を曲げると強く打てると言われて、やってみたらできました。他にも、やりたかった跳び箱の技が上達して、体育が一番好きになりました。おもしろい先生なので、廊下とかで見かけると「先生なにしてんのー？」と声をかけます。先生はいつも「できる、できないじゃない。姿勢が大事」と言っています。そのことを、塾や習い事の時にも思い出します。2回骨折して体育ができなくなってしまった時にも思い出しました。卒業しても、中学校はすぐ隣にあるので、プレハブに遊びにくると思います。

小学6年生 **丸山珂唯くん**

目指す教師像

**村の子供たちに、
運動を好きになってもらえる先生。
小学校に行ったらいつでも
山本憲吾に会えると思ってもらえる
先生になりたいです。**

WEEKDAY

- **8時20分** 出勤
- **9時〜15時35分** 体育の授業を2校合わせて週に3〜4コマ受け持つ 授業以外の時間は、授業の準備や校務分掌を行う
- **17時以降** 退勤

MESSAGE FROM
大島 俊彦 校長

小学校では、担任の教師がほとんどの教科を指導します。体育に馴染んできた教師ばかりではない中で、日々の忙しさの中で体育の教材研究が十分にできないこともあり、体育の技能指導については今ひとつであると感じていました。小学校の体育で大切なのは、子供たちが楽しく技能を習得できるようにすることです。そのためには、学習活動をどのように展開するか、どのような教具を使用するかなど、時間をかけて計画・準備をする必要があります。山本先生がアスリートになる過程において経験してきた練習は、苦しさに耐えるだけのものではなかったはずです。素晴らしい指導者から吸収したノウハウを豊富に持っていることが、「楽しくて実り多き指導」につながると期待しています。

MESSAGE FROM
吉田みさき 先生

山本先生は放課後に教師を集めて体育の授業づくりを教えてくれます。専門性の高さ、アイデアの豊富さが素晴らしく、なぜこんなにわかりやすく面白いアイデアが出るのか気になっていたら、今までやってきたことややってみたいことを書き溜めているノートを作っていました。常に学び続けている姿に刺激を受けました。また、一人ひとり性格が違い、場面によっても反応が変わる子供たちに合わせたやり方を臨機応変に判断し、常に子供たちが自ら動けるように見通しを立てた授業展開をされていて、勉強になります。山本先生の指導の結果、南箕輪村の体育は、子供たちにとって新鮮で楽しく、「できた!」という成功体験を得られる体育に変わったと感じています。子供たちに夢を語る姿は、ご自身のアスリートとしての体験を元にしているからこそ説得力があり、かっこよくて頼れる存在です。

- **2016年 ● 24歳〜25歳** 岩手国体 第4位 アジアクラブカップ選手権（香港開催） 優勝
- **2017年 ● 25歳** V1リーグ VC長野トライデンツ入団 長野県伊那養護学校に着任（2022年度まで勤続）

- **2019年 ● 27歳** オールスターゲームファン投票1位でリベロ部門選出

- **2021年 ● 29歳** 現役引退
- **2022年 ● 30歳** VC長野トライデンツJr.女子U15 監督に就任
- **2023年 ● 31歳** 南箕輪村の小学校2校に体育専科教師として着任

生徒と一緒に目標に向かう毎日、教師になってよかったと感じます

［京都府］

京都府立乙訓高等学校

池端花奈恵先生

CASE 04

DATA

年齢	41歳
教師歴	15年
資格	特別免許状
担当科目	保健体育
競技	フェンシング

2 024年4月に教師となって16年目を迎える池端先生は、保健体育の教師や生徒指導、フェンシング部の顧問に加え、地域のスポーツクラブで小・中学生への指導にも取り組む充実した毎日を送っています。教師になったきっかけは、大学卒業後に新卒で入庁した京都府庁でスポーツ生涯学習室に勤務していた時に訪れました。「一緒に働いていた教師の方々と仲良くさせてもらう中で、生徒の話や思い出話をする姿を見て憧れを抱くようになりました。特別免許状やスペシャリスト採用の制度のことを知り、興味を持ったのがはじまりです。」

入庁4年目だった2008年に採用試験をパスし、翌年からスポーツ健康科学科のある乙訓高等学校に着任。1年目は初任者研修や先輩教師の授業の補助を通して仕事を覚え、2年目からの2年半はロンドンオリンピックを目指すために休職します。そうして見事出場を果たした後、4年目の9月に復職して保健体育の教師としてひとり立ちをしました。フェンシングの指導者としては、2018年の福井国体女子フルーレ団体で乙訓高等学校の生徒だけで構成したチームが優勝したのを皮切りに、2019年のインターハイでは個人2種目で優勝。同年の茨城国体女子学校対抗フルーレで団体優勝。2020年には選抜大会で乙訓高等学校が団体優勝。2021年はインターハイの学校対抗戦で優勝、個人種目でも優勝と、目覚ましい成果を上げています。

フェンシング指導者として順風満帆といえるキャリアを積み重ねている池端先生ですが、着任当初は競技者として高みを目指し続けてきた姿勢と教師としての役割にギャップを感じることもあったそう。「フェンシングに関する経験は豊富でも、生徒への伝え方やどうしたら理解してもらえるかというところに関しては未熟だったと思います。自分の経験を押し付けるみたいになってしまっていたのかもしれず、生徒が楽しくなさそうだったり、うまくいかないことが多かったです」と当時を振り返ります。そこで池端先生は、一から学ぶ気持ちを持ち、周囲の教師や関係者に相談するなどして教えを乞い、教師としての実力を身につけていきました。「生徒一人ひとり、運動ひとつとっても得意や苦手がありますし、人間性も多様です。教師として経験を積む中で、そういった部分が理解できるようになり、その子の良さや、本人にとって難しいことが汲み取れるようになってきたのかなと思います」。

大切にしているのは、生徒とお互いに言葉で伝え合うこと。これは、池端先生自身が選手時代にイタリア人コーチとの間で信頼関係を築いた経験を通して培った価値観です。「お互いの背景を理解しながら、思ったことや意見をしっかり話すように指導していただいたんです。それによって、文化の違いや言語の壁も乗り越えて人としての関係を築けた貴重な経験でした。」また、根底にある生徒に向き合う姿勢は、幼少期から関わってきたフェンシングの指導者によって培われてきたといいます。「ずっとフェンシングが好きでいられたのは、そういう気持ちにさせてもらってきたからです。できない課題を見つけて、どうやったらうまくいくかを考え工夫することをずっとずっと楽しんできて、その楽しさはオリンピックに至るまで変わりませんでした。だから、フェンシング部でも、保健体育の授業や進路指導でも、地域のクラブでも、生徒自身が味わう楽しさを大切にしてあげたい、楽しみを奪わないように気をつけたいという気持ちを持って指導にあたっています。」

そう話す池端先生は、生徒が「できなかった動きができた」「いい練習方法が見つかった」と報告しにきてくれた時や、生徒同士がどうしたらうまくいくかを話し合っている時に、「一番嬉しく貴重な日々」だとやりがいを感じているそうです。

LIFE HISTORY

1990年●7歳 フェンシングを始める

2005年●22歳 同志社大学を卒業し、京都府庁に入職

2008年●25歳 北京オリンピックへの出場を逃す

特別免許状を取得し教員採用試験に合格

2009年●26歳 乙訓高等学校に教師として着任

2010年●27歳 休職してオリンピックの出場を目指す

2012年●29歳 ロンドンオリンピックに出場後、9月に復職

WEEKDAY

平日

- **8時前**
  出勤
- **8時50分〜16時15分**
  保健体育の授業を週に約16コマ担当
- **放課後**
  進路指導部　就職担当等・
  フェンシング部の指導
  週2-3回　おとくにクラブ（開放型地域スポーツクラブ）や京都きっず（京都府タレント発掘事業）のフェンシング指導

WEEKEND

- **土曜日**
  フェンシング部の部活指導
- **日曜日**
  大会時には引率

小学生の時に、地域のクラブで池端先生からフェンシングの指導を受け、高等学校でも指導を受けたいと考え乙訓高等学校に入学しました。部活動では、先生が持っている豊富な知識や感覚的なセンスを言葉や実技を通して教えてくれるだけでなく「周りと同じ練習をしていても、強くなることはできない」と、自分達で主体的にレベルアップする方法を考えられるようにアドバイスしてくださいます。また、一人ひとりの性格や改善点をすごく理解していて、試合前になると「勝ちたい」と前のめりなタイプの生徒にはいつもの感じに戻してくれるアドバイスをして、気持ちが散漫になってしまう生徒には、自分自身で集中する状態に持っていけるようアドバイスをされています。

保健体育の授業では、「教える」というより「生徒と一緒に参加する」というスタイルです。できていない人にちゃんと寄り添ってあげて、みんなでできるように、ビデオに撮ってお手本と比べて「どうしたらできるか」アイデアを出し合ったりしてできていない人を一人にしない。進路指導では、私が進路について迷っていたら、たくさん一緒に考えてくれました。「こういうジャンルは好き？」とか「英語は好きなん？」とか「もの作り系は？」とかたくさん質問をして深掘りしてくれて、先生との会話の中で自分の好きなこととか、向いていそうなことや目指す方向がだいぶわかりました。

フェンシング部 1年生
清水菜乃さん

MESSAGE FROM
STUDENTS

先生の教え子の方たちがすごい成績を出していらっしゃるので、背中を見て自分もそういうふうになりたいなと高い目標を掲げていますが、プレッシャーはありません。フェンシングでたくさんのことを学んで、練習して、それが結果的に、試合とか成績に繋がっていくという考え方で教えてくださるので、強くなりながらフェンシングがもっと好きになっていきます。

フェンシング部 1年生 前田竜成さん

MESSAGE FROM
中村 和雄 校長

乙訓高等学校には、池端先生以外に2名のスペシャリスト採用の保健体育科教師が勤務しており、1名は特別免許状を持つバドミントンの元アスリートで、1名は普通教員免許状を持つ陸上競技の元オリンピアンです。生徒を人として成長させるためにはさまざまな知識や経験が必要ですが、日々の指導の中でトップアスリートとして高みを目指し続けた経験が生きていると感じます。教えることが上手く、ポイントを押さえた指導ができるので生徒の伸び率も非常に高いです。そして、競技を通した集団生活のなかで対人関係の重要性もよく理解していると感じます。また、トップアスリートは目的意識が高く、困難なことがあっても粘り強くやり遂げようとする強い意志を持ち合わせているため、その人物像は生徒にとって素晴らしいモデルになると思います。一方で、教師として採用される以上、授業はもちろん、生徒や保護者対応などさまざまな事に取り組む必要があります。アスリートとしての経験の上に教師としての経験が加わり、混ざり合って、より良い指導へと変化させていける姿勢や気概を持つ方なら、教師として素晴らしい活躍をしていただけると思います。

MESSAGE FROM
保健体育科
市川靖久 先生

当初、特別免許状でスペシャリスト採用された体育教師というと、部活動をメインに競技に特化した指導をする先生なのかなという先入観があったのですが、全くそんなことはありません。池端先生は、担任も持ったことがありますし、それ以外の校務分掌と言われる学校運営の業務や生徒指導も、教員免許を持っている先生方と変わらない仕事をしています。大学で教員免許を取得して採用試験を受けて学校の教師になった先生たちばかりが学校の中にいるのではなく、いろいろな経験をされた方が子供たちに対して指導することは、すごく有意義なことだと感じています。教師として部活動指導に携わることで、授業やホームルーム活動、行事などを通して子供たちのさまざまな状況を見られ、その子がどんな子なのかを多面的に理解できることにより、生徒との間に信頼関係を育むことができます。

目指す教師像

卒業していった生徒たちが、
自分の人生を自分で切り開いて
イキイキと生きていけるような人生を
送っていく力をつける一助に
少しでもなれる教師でありたい

全力で挑戦した経験があるから「やってみよう」と伝えられます

［ 大分県 ］

大分県立佐伯豊南高等学校

澤田実希先生

CASE 05

DATA

年齢	37歳
教師歴	8年
資格	普通免許状
担当科目	保健体育
競技	陸上400mハードル

高等学校生の時にインターハイと国体で優勝し、世界ジュニア選手権に出場した競技実績を持つ澤田先生は、大学陸上部のコーチを経て大分県のスペシャリスト特別選考を通過。保健体育専修の教師として採用されました。赴任2校目となる県立佐伯豊南高等学校では勤続3年目を迎え、初めて3年生の担任を受け持つなど、着実に教師としてのキャリアを積み上げています。

「生徒自身が目標や夢を達成し、喜びを共有できた時に教師になってよかったと実感します。」そう話す先生が教師を志したのは、三つの理由があってのことでした。『陸上競技に携わっていきたい』『高等学校・大学・大学院・実業団とオリンピックを目指して陸上を続けたからこそ得られた経験を活かしたい』『子供を産んでも家族のサポートを受けながら仕事を続けたい』この三つの希望を叶える方法を考えたときに、地元に戻って教師になるという選択肢がベストだと考えました。」母は教職経験者で姉も教師として働いていることから、大学時代に「引退後も陸上競技に携わるため」と教員免許を取得。大学陸上部をコーチとしてインカレ入賞に導いた実績も後押しとなり、教師の道が開けました。

スペシャリスト特別選考に当たっては、選手時代に年単位で大きな目標を立て、逆算して導き出した小さな目標やトレーニングメニューをやり切ってきた経験をプレゼン。また、病気による挫折を乗り越えた経験も言葉にして伝えたと言います。

挫折で気付いた「もうひとつの頑張り方」

「大学に入学した年に腎臓の病気を患い、3年の秋まで約2年間、全く運動ができませんでした。目標も立てられず、それまでの頑張り方ができなくなりました。その時に、1年後や半年後から逆算するやり方ではなく、今目の前にあることの中からできることを探すやり方もあると気付いたんです。朝早く起きるとか、散歩に行くとか、小さなことでもいいので積み重ねていったら、後から振り返って頑張ってきた自分の道ができたと思える。それまでとは真逆の頑張り方を実践して病気を乗り越えた経験を活かしたいとプレゼンしました。」

澤田先生は、教師として日々生徒と向き合うようになった今、自身の経験を生かして「逆算して計画を立てる頑張り方」と「1日1日を積み重ねる頑張り方」を、一人ひとり異なるタイプに合わせて伝えることを心がけています。また、病気になる前に持っていた「自分は人とは違うから孤独に頑張ればいい」という考えが、挫折を経験して「自分も人も、それぞれいいところがある。コミュニケーションを取りながら、いろいろな人に支えてもらい、応援してもらってやっていく」と考え方が変わったことも、職場で周囲の協力を得ながらセカンドキャリアを築く上でプラスになって

LIFE HISTORY

2004年●18歳
高等学校3年次にインターハイ・国体・日本ジュニア優勝
世界ジュニア選手権出場

2005年●19歳
大学1年次に日本選手権4位
難病を患い競技を中断

2009年●22歳
教員免許を取得
大学院進学
大学院1年次に日本インカレ3位、日本選手権入賞

2010年●23歳
論文が日本トレーニング学会賞を受賞

2011年●24歳
実業団に入団し陸上を続ける
日本選手権4位

2013年●26歳
福岡大学陸上部のコーチにインカレ入賞を果たす

WEEKDAY

平日

- **7時** 子供を保育園に送り届け、大分市から佐伯市にある学校へ通勤
- **8時前後** 出勤
- **8時10分** 始業
- **8時25分** ホームルーム
- **8時40分〜16時00分** 保健と体育で16コマの授業担当 空きコマを利用して授業の準備
- **16時〜18時** 部活動
- **18時〜19時** 学校を出て帰宅

WEEKEND

土日

- **土曜日** 午前中に部活動
- **日曜日** 3月終わりから11月のシーズン中は月に1−2回試合が入る場合も シーズンオフは、部活の完全休養日

いるそう。最近では、ある出来事がきっかけとなり、自分の強みを自覚して伝えることの大切さに気付いたのだとか。「県の強化事業で順天堂大学に赴き、陸上部コーチの福島千里さん（女子100mと200mの日本記録保持者）の指導を受けました。すごい方なのに、学生に対してとても気を遣いながら指導をする謙虚な姿が印象に残りました。そして、私自身がアスリートとして一つの目標に向けてストイックに努力することが当たり前だと思い、その貴重な経験を生徒に十分に伝えられていないことに気付きました。」この気付きを生徒への眼差しに置き換え、「自分なんてこれぐらいでいい」と頑張り方がわからない生徒に対して、「自分の強みを知り、ほんの少しでも努力を重ねたら見えていない景色が見られることに気付かせてあげたい」と感じるようになったそう。「まだまだ経験が浅く、授業の後には必ずと言っていいほど改善点が見つかる」と話す澤田先生は、競技人生を通して培った探求心を活かし、教師としての進化を続けています。

2015年●28歳
大分県に帰郷し教師に

2022年●35歳
全日本陸上連盟の公認コーチ資格を取得

MESSAGE FROM

小幡 英二 校長

澤田先生は、スペシャリスト特別選考で陸上競技の専門性を評価され、教師に採用されました。特別選考とはいえ、学校現場で担う実務は他の教師と変わりません。専修免許を持つ保健体育の授業に加え、クラス担任や進路指導なども担当します。高等学校は、学力や競技力を伸ばすだけでなく、将来に向けてどう伸びていくかを10代のうちに方向づける人間形成の場でもあります。だからこそ、スポーツで高みを目指した人にしかない特別な経験や、学校以外の社会経験を持つ先生がいることは、プラスになると考えています。また、近年では学校現場でも、課題を把握して授業改善を立案し、準備して実施して結果を検証する「PDCAサイクル」を意識した指導を行っています。澤田先生は、陸上競技を通して目標を明確に持ち、自分をコントロールしながら人生を送ってきた、PDCAサイクルを回してきた経験を豊富にお持ちだと思います。そうした力も、学校運営や生徒への指導に活かしていただいています。

目指す教師像

高校3年間だけでなく生徒の長い人生をトータルで考えてサポートできる先生になりたい

教育委員会向け

教育委員会が考える「アスリート人材」の可能性

～京都府・福井県・南箕輪村（長野県）の場合～

公立学校における教師の任命権は、都道府県や市町村の教育委員会にあります。アスリート人材を教師として採用した実績のある福井県（Case２）、長野県南箕輪村（Case３）、京都府（Case４）の教育委員会に、4つのテーマでアスリート人材採用に関する意図をお伺いしました。

THEME 1

アスリート経験を持つ教師への期待

福井県 競技選手の発掘・育成・強化

アスリートの低年齢化を踏まえ、小・中学校から高等学校まで一貫して指導ができる教師（スポーツ指導者）として地域と高等学校をつなぎ、専門の競技における高等学校の部活動の強化、小・中学生の選手の発掘・育成・強化を担うことを期待している。また、高い専門性や指導方法を、他の教師や地域のスポーツ指導者へ伝達することによる福井県全体の指導力の向上が望まれる。さらには、スポーツ体験イベント等への参加を通して県民全体のスポーツ振興、健康増進に寄与することも企図している。

南箕輪村 村の子供たちの体づくり・仲間づくり

村として、子供たちが運動を好きになり、よりよい体づくりができる体育の授業の提供を目指している。また、体育の授業は、運動能力だけでなく、集団でゲーム性のある競技に取り組むことを通してコミュニケーションを学び、一緒に考えることで仲間をつくる力や、できないことを仲間と分かち合ってできる方法を見つける自己統制力を培う貴重な機会でもあると考えている。こうした認識、及び、担任ひとりがほとんどの教科を受け持つ小学校の現状を踏まえ、専門的で質の高い体育の授業を期待して体育専科教師を採用した。体育専科教師が担任と一緒に体育の授業作りに取り組むことで担任の指導力が向上するほか、体育の授業を通して児童理解が進むことでよりよい学級運営につながることも企図した。

京都府 部活動の質向上とキャリア教育

アスリート経験のある教師が学校現場に加わることにより、部活動において生徒がより高い技術や記録に挑戦したり、活動する中で楽しさや喜びを味わったりするなど、学校生活が豊かになるとともに、周囲の教師の知識の獲得や技術の向上、視野の広がりといった効果が生まれることを期待している。

また、アスリート経験のある教師が高い目標へ挑戦したり困難を乗り越えたりした経験は、部活動指導だけでなく、学校生活の中で、生徒のキャリア教育にも大いに資するものとして期待している。

THEME 2

今後のアスリート人材採用への意欲

京都府

スペシャリスト特別選考で様々な競技のアスリート採用を継続

京都府教育委員会では、高い競技力や指導の専門性を持つ方を対象に、教員採用選考試験において「スペシャリスト特別選考」を実施しており、様々な競技において人間性豊かなアスリートを継続して採用していきたいと考えている。

南箕輪村

女性の体育専科教師の採用を検討

現在、男性2名の体育専科教師を村の正規職員として任用している。予算次第では、女性の体育専科教師の採用も検討の余地があると考えている。

THEME 3

教師志望のアスリート人材に身に付けてほしい能力

・児童生徒はもちろん保護者や他の教師、指導者との円滑な人間関係を築くことができる人間性やコミュニケーション能力

・成功体験だけでなく、苦労や逆境に向き合う経験を通して培われた力

京都府

愛情・情熱・使命感・生徒の長期的なキャリアへの視野

採用に当たっては、「保健体育科教師」として、子共達に対する愛情、教育に対する情熱や使命感とともに、競技における目先の成績にとらわれず、生徒の長期的なキャリア育成を視野に入れ、学校教育に携わっていただきたい。

福井県

指導力・コミュニケーション能力・逆境に向き合う力

・児童生徒の発達段階や個々の適性に応じたきめ細やかな指導力

・専門の競技における高い指導技術

南箕輪村

子供の成長を子供とともに喜べる心

教師の専門性の真髄は「子供を見る力」にあると考える。子供に対して、「サポートする」「育てる」「教える」といったさまざまなスタンスを使い分け、どんな手立てがその子のステップアップにつながるかを考えて働きかけ、それが効果を発揮した時に喜びを感じられる方が教師として活躍できる。子供と一緒に目指す姿を描き、一緒に取り組んで、実現したら一緒に喜ぶ。「自分が教えたから」ではなく、子供自身が満足感を得て喜んでいることを喜べる方に、教師を目指していただきたい。

THEME 4

教師志望のアスリート人材との接点

京都府

競技団体世界大会

競技団体への紹介や、世界レベルの大会に出場する選手にＰＲしている。

南箕輪村

地域のプロスポーツチーム

村として応援しているプロスポーツチーム（ＶＣ長野トライデンツ）と連携して接点を持っている。

本事例集は、文部科学省の令和5年度委託事業「学校教育における外部人材活用事業」を受託し、株式会社フューチャー・デザイン・ラボが実施したテーマ「学校現場におけるアスリート人材活用推進事業」の成果をとりまとめたものです。

本事例集に掲載されている制度の説明等については令和6年3月現在の法令等に基づいております。本制度の活用に当たっては、必ず最新の制度をご確認ください。

教員免許状の所有の有無に関わらず、教師やアスリートとしての様々なキャリア事例やアスリート向けの教員採用の情報提供サービスを実施予定です。
ご登録を希望される方は下記QRコードまたはURLよりご登録ください。

▼
▼
▼

https://forms.office.com/r/6fy7G3wGmT

文部科学省

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員免許・研修企画室
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3−2−2
TEL：03-5253-4111（代表）内線3968

（2024.03発行）